

何となれば従來のこの種の意見なるものは、多くの場合、感情を出発點としてゐて、獨斷に陥り勝ちであつたからである。

凡そ物の輕重、優劣は、それを實際に比較して見た結果によつて判断すべきもので、頭から斷定ができるものでない。——それで輕重優劣の比較論は、決して始めから主張的であつてはならぬ。それは必ず解說的であらねばならぬ。つまり「何故に」といふ事 Why といふ事が先づ明かにされねばならぬ。

優越の主張は、結論が得られてから後の問題で、證明をもせぬ先に、始めから主張すべきものではない。

従來の日本主義者の弱點は、十分な證明の材料、確實な根據を持たずに、頭から己の信ずる事をば人に強ひやうとする處にあつた。——これでは科學思想の影響を受け、實證されない事を信せぬ現代人をば説破できるものではない。

また重ねて思ふに、多くの西洋崇拜家とても、實は西洋が果して日本より優

れてゐるか否かを、實證的に比較して、西洋を崇拜する者に至つた者でなく、感情的に盲目的に西洋を崇拜してゐる者であるだけに、これを破るには感情論ではいかぬ。極めて冷靜に實例について、じゆんくとして説き聞かさねばならぬ。一々證據を舉げて聞く者の理性に訴へて、その先入主となれる偏見を打破せねばならぬのである。

故に西洋崇拜といふ偏見の打破は、特に科學的な手段、實證的な方法によらねばならぬ。——しかしてこれ取りも直さず、予のどらんとする態度に外ならぬのである。——故に本論は従來の同種の物とは、根本的に論文の性質が異つてゐる事を承知していただきたい。——つまり本論は日本人と西洋人の科學的能力を、科學的に比較しやうとしたものに外ならぬ。

されば予は本論を、特に西洋崇拜の人達に讀んでいただきたいのである。——あの「新人」だとか「文化主義者」とかいふ、表面は非常に新思想家ぶつてゐて、

その實は全くの舊思想家に外ならぬ人達に読んで戴きたいのである。

更にまた予の恐るる所は、實は一番に読んでいただきたく目標とする人達は多分本論の題の日本的臭氣に毛嫌ひをして、始めから讀まうとはせぬだらうから、その様な友人を持たるる方は、特にそれ等の人に本論を讀む事をすすめていただきたい。

甚だ論文の押賣をするやうではあるが、一日でも多く、一人でも多く、これ等の誤れる人の迷ひを破りたいのが筆者の願ひとする處であるから。

二、ハンチントンの證明

日本人の科學能力の優秀なる所以を、證明する材料は誠に澤山あるが、本論は主として西洋崇拜の人々の夢を呼びさますために書くのであるから、西洋人の調査や報告を第一に紹介する事が、順序として便利であらう。

地理學の方面から、歴史や人間の活動や生活を研究する學問に、新地理學と

いふものがある。つまり地理的環境と人類との關係を研究する學問であるが、この方面に傑出した學者が目下アメリカに二人居る。トーマスとハンチントンとがそれである。——アメリカにはなほセンブルといふ婦人があり、同女史の『地理的環境の影響』は最近に邦譯されたが、女史の思想はラッツェルの祖述者たるに止まり、權威者ではない。

右の中ハンチントン Huntington は、先年『文明と氣候』といふ書を著し精神や肉體の活動力は外界と密接の關係を有し、肉體的勞働には華氏六十度乃至六十五度を適當とし、精神活動の最も見るべきは平均三十八度なりといふ事を明にし、大に世界の學界をにぎはした人である。

この人が昨年また『人種の性格』といふ書を出したが、同書の三三三ページにおいて、一九〇〇年のアメリカ科學者名簿一千名の中から、他國人で同名簿に載つてゐる人員を調べ出し、これとその國の移民との割合を算出したものを

科學上の才能は日本人が世界一

漢方醫學の新研究(附録)

載せてゐる。これによると、日本人が他の全ヨーロッパ人を蹴落して第一位になつてゐる。今その表を掲げれば次の通りである。

部	甲	國	生	卓越した 科學者數	一九〇〇年に 住の二十一歳以上 の人員	卓越した科學者一人 につきアメリカ在住 の人口數
	日	日本	三	一	二八、〇〇〇	九、三〇〇
	ベルギー		一	四	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	オランダ		四	一	四六、〇〇〇	一〇、五〇〇
	スコットランド		一一	一	一一六、〇〇〇	一〇、五五〇
	カナダ		四七	一	五〇五、〇〇〇	一〇、七〇〇
	スウェーデン		五	一	六二、〇〇〇	一一、六〇〇
	イギリス		三三	一	四六三、〇〇〇	一三、〇〇〇
	ロシア(主としてユダヤ人)		一一	一	一七三、〇〇〇	一五、〇〇〇
合	計		一一五	一	一、四〇四、〇〇〇	一一、二〇〇

部	乙	部	丙
	デンマーク		ポーランド
	ボヘミア		アイスランド
	オーストリア		支那
	ハンガリー		メキシコ
	スイス		イタリヤ
	フランス		合計
	ドイツ		
	ノルウェー		
合	計		
	八二、〇〇〇		一八三、〇〇〇
	七〇、〇〇〇		七二二、〇〇〇
	一四三、〇〇〇		七八〇、〇〇〇
	七三、〇〇〇		一四五、〇〇〇
	二九四、〇〇〇		二五三、〇〇〇
	五五、〇〇〇		一一、二八一、〇〇〇
	一、三二七、〇〇〇		
	一七三、〇〇〇		
	二、二一七、〇〇〇		
	二七、三〇〇		
	三五、〇〇〇		
	三五、六〇〇		
	三六、五〇〇		
	四九、〇〇〇		
	五五、〇〇〇		
	五七、六〇〇		
	八六、五〇〇		
	五一、五〇〇		
	三六一、〇〇〇		
	八一、〇〇〇		

科學上の才能は日本人が世界一

さてところで、アメリカに於ける二十一歳以上の成人の總計と、アメリカ全國の卓越した科學者との比例を求めると、二萬一千人につき一人といふ割合になつてゐる。それで右の表の中で「甲の部」に入れてある民族が、この平均以上であるから、まさにアメリカの科學界に貢獻してゐる事になるのである。而して「乙の部」の民族は、アメリカの平均レベルに近い民族で、「丙の部」に屬するものは、むしろアメリカの文化を低下せしむる要素をなしてゐる物で、イタリヤの如きは白人種でありながらこの有様である。これを以て見ても日本民族を劣等視して排斥する事が如何に、感情に外ならぬかが分らう。外務省などはこの様な本に書いてある事を證據として、移民問題などに腰強く出てみたらどうか。

右の表の中、アメリカの科學に貢獻した者を三人あげてあるが、その中の二人は多分、野口英世博士と高峰讓吉博士であらう。他の一人は知らぬのでハン

チントンに問合せ中である。

日本人は人種的偏見で壓迫されてゐてさへ、最高の點數である。若し白人と同等に待遇さへさるれば、必ずやこれよりも數倍の人物が輩出してゐたに相違なからう。日本人がアメリカで頭を出すには、非常に大なるハンデキャップがついてゐるから、日本人の科學才能は表面に現はれた以上であるといふ事を知らねばならぬ。

三、スタンフォード大學の報告

アメリカでは人種の價値のレベルを高く維持して置くために、ごこの人種を最も多く移住させた方が良いかといふ事を、研究決定する目的のもとに、各種のメンタルテストが先年スタンフォード大學において行はれた。日本人のテストの費用は澁澤榮一男が寄付された。今そのテストの結果の報告を左に譯出する。これは予が澁澤事務所にあるコッビーを載いたので、甚だ感謝をしてゐる。

科學上の才能は日本人が世界一

る。

このテストは十歳から十五歳までの學童四百四十人に對するもので、その平均點は次の通りである。

アメリカ人の平均	九七・三
北ヨーロッパ人(イギリス、ドイツ、フランス、ノルウェー、デンマーク)	一〇〇・三
日本 人	九三・四
フィンランド人	九〇・〇
スロバキア人	八五・六
イタリア人	七七・五

なせこの日本人の平均點が、ハンチントンの報告と異つて第二位に下つたかといふと、このテストに加つた四百人の兒童の中に、一團二十人の低能兒村があつて、そのために平均が下げられたのである。四百人中、二十人の低能兒とは大變な例外的な割合である。しかもこれを以てしてなほ、日本は第二位を

維持する事は誇るべきである。いま日本兒童の平均點を更に細別すれば

サンフランシスコ、オークランド、ロサンゼルス	の諸市の平均	九九・一
サクラメント、フレズノ、スタックトンの諸市		八七・七

で右の平均の結果が九三・四となつた譯である。日本には四百人中に二十なんて割合の低能兒は居らぬ。それで日本人の本當のテストの結果は、予の考ふる處によれば九七・三のアメリカ兒童の平均の上に位すと考へられるのである。

更にテストの報告書にいはく。

殊に驚くべき事には、アメリカにゐる日本兒童は、歴史や文學において、アメリカ兒童よりも劣つてゐると考へられてゐたのに、却つてアメリカの歴史について、我等より優れてゐた事である。

日本兒童は白人兒童の平均よりも、品行と注意力が非常に優り、圖畫、音樂、綴方、算術、體操で少しく優り、讀方、國語、地理、科學に於ていささか劣つ

科學上の才能は日本人が世界一

てゐる。

美の鑑賞力、注意力、膽力、良心等で白人より優れて居り、體力、用心、自信、意志力、快活等は同等で、獨創力は少し劣つてゐる。

これを要するにカリフォルニア州における日本人は全體として、智能的に北ヨーロッパ人より少し劣り、南ヨーロッパ人よりも、非常に優れて居るのである。しかして社會的・道德的性質においては、全然同等で、しかも多くの點においては、恐らく他の人種の平均の子供より優秀であるといふ結論が、教師によつて得られた。

以上は實に、テストの報告の翻譯であつて、日本人がきらいなアメリカの人によつて、公平に試験された處である。

予はこのテストによつて日本人の能力を *The East* とはいはぬが、*The East* とは云ひ得ると思ふ。

諸君はこれ等の證明を以てしてもなほ、予を目して祖國偏重の國粹的保守思想家といはるるのであるか。

四、日本への留學

予はこれまで幾度か、遠からぬ中に、世界各國から日本へ、學術の研究に留學生を送る様になるに相違ないといふ事を新聞や雑誌に豫言して置いたが、今月になつて急に色んな留學生の記事が見え出した。

六月二十三日の本紙は、全アメリカの各大學の婦人協會は、この後日米親善のために各大學の中で成績の優等な者を選抜して、日本の大學に留學させる事を議決した旨を報じ、また本月十日にはメキシコから政府の命によつて、二名の留學生が來朝した。

六月十五日の新聞によれば、ドイツのゲッチンゲン大學のゾンマーン博士が長岡半太郎博士の下でスペクトル線の研究に従事したいと依頼して來たので、

科學上の才能は日本人が世界一

理研はこれを許したといふ報道が出てゐる。この後この傾向はますます増え、珍らしくなくなつて、新聞になんか出ぬ様にならう。

外國人が日本へ留學するなどいふと、日本の今日の實際と西洋の實際とを比較する事をせず、頭から日本を劣つてゐるものと、先入主の見解に支配されてゐる人達は不思議に感ずる様であるが、それは日本の事情を知らな過ぎるものである。アメリカが日本へ留學生を送る事などを、單に親善だなどと思つてゐたら間違ひである。

日本を輕蔑する事を以て、見榮の様に心得てゐる人々は、日本への留學は『物好き』に見えるかも知れぬ。しかるにいつくんぞ知らん、日本人の頭腦の優秀なる事は、白色人種の間において、一個の驚異であるのである。

昨年だか一昨年だつたか、森本厚吉とかいふ法學博士が澤庵亡國論といふ馬鹿な「新しがり」の意見を吐いたが、先月イギリスの皇室からは、漬物は日本

が世界一で進歩してゐると云ふので、わざわざ留學生を派遣される事になつた旨が報せられた。

最近になつて、やつと日本主義が全般的に目を覺まし掛つて來たが、これは何を意味してゐるかといふに、日本はもはや西洋から學ぶべき事を、ほとんど學び盡してしまつた爲め、無意識の中に自尊心が出て來た事を物語るに外ならぬのである。

日本主義は十年前までは、時代錯誤の思想で舊思想に過ぎぬと考へられてゐたのに、今では新思想の第一線に立つてしまつた。時世の急轉には自らほほ笑ますには居られない。

日本は今や西洋を知り盡し、自らふりかへつて見る時代になつた。日本の眞の文明はこれからである。日本の文明が世界に輝くのはこれからである。日本は今や冲天の勢を以て向上の一路にある。

日本人でありながら、日本人の能力を知らずして、今なほ西洋崇拜にかかつてゐる者は「新しがり」ではなくて、今では却つて時代錯誤の舊思想家である。人は多くの場合、自分の短所を知らぬと共に、その長所を知らぬものであるが、日本人が自らの能力の優秀を知らなかつたのは、同じくこの心理である。人は長じて自ら己れの長短を知る如く、日本は今や初めて己れを知り出したのである。

諸外國が最近になつて、急に留學生を日本に送るといつて、今更に驚くのは自らを知らぬものである。それは多くの諸君等が知らぬまでで、實はドイツなどは既に日本に澤山の留學生を送つてゐたのである。

たとへていへばドイツは日本に留學生を派して、日本の正宗の名刀を研究し遂に最近の鋼鐵の製練に一時代を劃したツタニウムを發見した。

また先年クルツプ會社の技師が東京市外の大久保に住んでゐた高知出身の陸

軍豫備大佐、長屋重名氏の下に来て、日本語をイロハから學び、遂に氏について刀の「つば」を研究する事四年、歸つてクルツプ會社より『つばの研究』なる大きな本を出版した。

まだまだ色んな方面に澤山の留學生が來てゐるので、それは決して不思議な事ではないのである。

五、日本の今日の學問の程度

日本人は自己を卑下するの餘り、日本の今日の學問の程度を、非常に低い物と考へてゐるが、これは西洋の學問の程度を知らぬものであつて、日本は決して卑下するに及ばぬものである。

宇宙の大自然に對する知識に比ぶれば、日本の今日の學問の程度は、實に幼稚な物に相違ないが、これを人類の全般的知識と比較して見て、實に第一流である。

歐米の今日の學問の程度を見なければ、何も歐米をば視察して歩く必要はない。その縮圖は正に日本にある。日本の學界の程度がいい加減な程度において、歐米の學果も實はいい加減な物なのである。

人種によつて自ら、得意と不得意とがあるが、最も得意の方面をあげ、今日わが國が世界第一等の進歩を遂げてゐる處のものをいふならば、先づ第一に醫學であらう。ドイツの醫學の如き非常に發達してゐる様であるが、それは表面の事で、實質は日本に及ばぬのである。

また文明人のみの特徴の一といはれてゐる、組織力においても、日本人は十分にそれを持つて居り、警察制度において日本に及ぶ組織國なく、鐵道もまた世界一の正確の稱がある。造船能力においても、今日は日本は世界一といはれ、實に日本の如き巨艦を作り得る技術を有するものがない。

いつたい日本人が、日本と諸外國とを比較するに當つて、共通した一つの癖

がある。

それは、常に日本一箇國と歐米の全體とを比較して、日本が劣つてゐると思ふ事である。これは國々を比較するに當つて、陥つてはならぬ重大なる間違ひである。

一國と他國全體を比較するならば、一國の劣つてゐるのは當り面である。このころみにイギリス一國と他の世界の全體とを比較せよ、またドイツ全體と全世界を、またフランス一國と世界全體を……等々、どれもが比較になつたものではない。

故に日本の今日の學問の程度を比較するには、日本と他の全世界でなしに、一騎打ち的に一國一國とその學問の程度を比較して見るべきである。そうすると一長一短がわかり、自ら日本の學問の位置が奈邊にあるかを知り、十分に意を強くする事ができるのである。

日本を無暗と偉いと思ふ見解の間違ひである事は、日本を無暗と劣つてゐると考へる偏見と等しいのである。無根據である點において二者同一である。――凡そ議論といふものは「論より證據」といふ事が大切であつて、いい加減な感情論はいかぬのである。

日本人が日本一個と歐米の全體とを比較して、劣等感に戦くのと異つて、歐米人は自國一國と日本一國とを比較して、日本を公平に見るがために、日本を恐れるのであつて、カイゼルが日本を恐れたのも、實は無理がなかつたのである。

白人種は白人種のみ高度の文明を築くことが出来ると思つてゐたが、意外にも有色人種の中から、有色人種間の唯一の科學民族が生じ、しかもその科學發達の速度において、單に有色人種間の例外たるのみでなく、白人種國のレコードを破つたのである。

實にその期間は僅かに七十年の短日月であり、ヨーロッパの如何なる國においても見る事が出来ぬ現象である。――これは日本の過去の歴史を知らぬ外國人の目から見れば、確かに一個の奇蹟に外なからう。しかし日本の過去を知つてゐる人達にとつては、日本今日の發達は、誠に自然なる道を歩んだに外ならぬのである。

六、日本人種は猿か

日本が近々七十年間に、世界のレコードを破つた目覺ましい進歩の何故なるかは、まさに一個の世界の謎であつた。ペルリが浦賀に來たのは一八五三年で今から計算して七十四年前である。この短い期間に日本は封建の舊衣を脱して、半開と誤解されてゐた程度から、歐米に劣らぬ文明に達したのである。

日本人が何故に、その科學的能力を急激に發輝したかの理由を知らぬ西洋人はその發達をば、日本人を「模倣性の偉大」といふ事で説明しやうとしてゐる。

この説をなす者は澤山あるが、日本人のだけれども知つてゐる學者をあげて見るならば、かのフランスの社會學者のルボンである。彼は日本文明をば淺薄なヨーロッパの模倣で、兒戯に外ならぬとしてゐる。

しかしこの「模倣性の偉大」といふ事を以て、日本人を強ひて劣等視せんとする事は、ヨーロッパ人種にとつて、自ら自己撞著的な辯明に終らねばならぬのである。

何となれば、最もよく模倣する者は、實は白人種に外ならぬからである。それは世界の科學の發達史が良く物語つてゐる處である。

模倣の能力といふ事をソナナに簡單に、あつさりと片づけるのが間違つてゐる。模倣といふ事はソナナ簡單な能力でなくて、實に文明人の一大特徴である。ある。

世界の文明といふ物は、持ちつ持たれつのも、相互的に助け合つて引き上げ

あひをしてゐるのであつて、ヨーロッパのそれぞれの國は一つとして模倣し合はぬ國はないのである。たとへていへばドイツのコツホの血清療法の見見は、フランスのバストールの発見が基礎をなして居り、バストールの発見はオランダのヤンセンの顯微鏡の發明に起原を發してゐる。マルコニ一の無線電信はドイツのヘルツの電波の研究を基礎としてゐる。

一般を以て全豹を知ればよい。科學の發達は必ず、相對的な物である。故にウオード、タルドの學徒は學問における「獨創」なる事を否定して、獨創 Originalität といふ事をば、模倣の綜合としてゐるのである。

既にヨーロッパ人之間において、獨創なる語の價値を過去の物とし、模倣の綜合による新種の創出によつて、社會や科學の進歩を説明しやうとしてゐるではないか。——日本文化を模倣の一言によつて否定しやうとする事は、その論理的結末において、ルボン自身の國の文明の否定となるのである。

白人種國において、最も模倣の天才的な國をあげればドイツである。かの國は、國柄が若いので、世界の各地に人材を留學せしめて、他の國の優良な成達物を盗んでゐるのである。

世界のどの國の文明でも、模倣しあつて進歩する物であるといふ原則がある以上、日本も決して今日まで模倣した事を恥づるに及ばぬのである。大手を振つて模倣であるといつても良いのである。

進歩といふ物は、單なる一個の模倣のみでなく、數個の要素を結合して、いわゆる獨創といふ事を達成するのであるが、日本は單に模倣より一步も出ぬ模倣であるか、それとも模倣より一步を出た模倣であるか。——若し日本が模倣を一步も出られぬ模倣であるならば、予はルボンの日本罵倒に對して口をつぐむであらうが、遺憾ながら日本人の模倣は、單に模倣のみの模倣でなく、必ずこれを改良して、より良くしてゐるのである。

予はこの日本人の、改良的見識即ち異なる要素を結合して、所謂獨創なる能力を發揮した實例をば、學問の各般の部門についてかなりに詳細に知つて居り、而して併せて日本のそれと西洋のそれとを比較して研究して居り、必要であるならば、何時なりとも材料の提供に應じ得る。

以下その概略を、極くかいつまんで、簡單に述べる事にする。細かに知りたい人はそれぞれの學術の専門書を見るべく、既に日本語で書かれた本の中にすらも十分の材料が散見してゐる。

七、數學と天文學方面の能力

日本の數學は世界の數學史上に有名なものであつて、ニュートン、ライブニッツと同時代に、江戸の勘定吟味役であつた關孝和氏が、東西時を同うして微積分を發明してゐる。ニュートンの生れたのが一六四二年で、關氏が生れたのが一六四六年である。氏の墓は牛込區辨天町の淨輪寺にある。

明治になつて、西洋數學が壓倒的勢力を占めてしまつたが、日本人の數學的頭腦はいよいよよさえてゐる。菊池大麓氏はイギリスでチャールズ・スミスと首席を争ひ、藤澤利喜太郎博士によつて函數論が帝大に設置されてから、日本の高等數學は俄然として世界に重きをなし、兩氏の論文は世界に有名な物である。

楕圓乘法に一步を進めた虚數乘法は、現に日本が世界一である。この學問は十九世紀の後半に發達したもので、クロネツカー、ウエバー、ヒルベルトによつて研究され、近來フエターがヨーロッパの覇者であるが、彼等はみな我國の高木貞治博士に及ばぬ。フエターの最近の論文の如きは、その方法が迂遠で往々誤謬があつて、とても高木博士の明快徹底的なるに及ばぬのである。

天文學は始め支那から輸入したので、欽明帝の時代に曆博士が來たのに始るが、それから日本は急激に天文學が發達した。支那曆法による時は、日食や月食がどうしても、實際より一日ないし二日遅速があつたが、その誤差の事をば

後嵯峨帝の時に三善雅衛、清和帝時代には池田昌意、保井春海が指摘し豫言し、寛文十二年には春海の上奏によつて、間違ひばかりする支那曆を廢して、春海の日本曆が採用された。

地動説は大坂の醫師の麻田剛立が自ら考へついたとあるが、この地動説は西洋ではギリシヤのターレスに始まり、ピタゴラス、アリストテレスによつて繼承されコペルニカに至つて大成した物で、古さに於て日本のそれとは比較にならないが、ただ星雲説については日本は多少威張れるのである。

長崎に中野柳圃(一名志築忠次郎)といふ通詞が寛政十年、即ち西曆で一七九八年に『曆象新書』といふオランダ語の天文學の翻譯を出版してゐるが、この本の付録として自説の星雲説を述べてゐる。ラプラスが星雲説を發表したのが一七九六年で、寛政十年に先立つ二年であるが、さてこの二年の間にラプラス説が日本に傳つたものであらうか。昔の本は木版だから、中々一寸では出版で

きぬもので、出版に一年も費すとすればヨーロッパから一年内に日本へこのラプラス説が秘かに傳へられたと見ねばならぬ。これは有り得べきことではない。

この中野柳圃の発見も、自慢はして見たいが、うんとラプラスにその功をゆづつておくとして、最近には水澤の観測所長の木村榮博士の有名な「Z項」の発見がある。ドイツのポツダムが萬國測地協會の中央本部で、イタリアのサンピエトロ島のカリフォルト、アメリカのメリーランド州のケーザスブルグ、カリフォルニア州のユーカイア、シンシナ洲のシンシナチの三地、ロシアのシヤルヂユイと水澤の六ヶ所で、一八九九年の末から緯度の観測を開始し、一年毎に結果を中央局に報告し、地理の緯度がどんなに變化するかを調べるのであるが、水澤の報告がいつも違つてゐた。

それで日本が常に小言をいはれたが、遂に木村博士は、萬國共通の測定法式

が間違ひであることを発見して英名を走せたのである。

日本にウイルソン山の様なすばらしい天文臺があつたら、日本人はどんな見事な発見をなし得る事であらうか。

また平山清次博士の小惑星の軌道の研究も、世界における權威といはれてゐる。

日本人の數學的能力はアメリカの大學でも、不思議にいはれて居り、アメリカにおいては數學で日本人に匹敵し得るものがないので、あるアメリカ人は日本人の頭のよいのは、魚を食ふので、鱗の攝取が多いからだとの奇説を吐いてゐる者すらもある。

八、物理化學の方面

この方面における日本人の世界に對する貢獻は實に澤山あつて、一々これを掲げる事が出来ぬので三四項に止めて置く。

長岡半太郎博士は最近、水銀から金をとることで有名だが、博士の本當の學界に對する貢獻は、磁石のゆがみに對する發見である。博士の發見はニッケルを付磁するに當り、ニッケル線の偏極はある狀況の下に、その符號を變ずるといふので、この方面に關する世界的先驅として、一九〇〇年にパリで開かれた萬國物理學界で報告し、近世物理學界に一大記録を残された。

鋼鐵の磁氣に關する研究は、東北大學の本多光太郎博士が世界一の權威として認められ、イギリスなどは常に博士に教を乞ふてゐる有様である。

無線電話といへばアメリカが本場であるといふが、これを完成したのは日本人で、鳥潟右一博士と木村駿吉氏との功で、主功者は木村氏である。これは明治四十二年の發明で、一種の振動放電板を發明したので、無線電話が世界で最初にかたのは伊勢灣であつた。

レントゲンについてはアメリカのクリーツヂ氏が斯界の權威の如く云はれて

ゐるが、大倉林平君はクリーツヂ以上の天才である。氏は整流機なしに直接に交流電氣から、直にX線を出す發明があり、民間にゐて大に飢ゑてゐる。彼の發明は變壓器の板の一方に靜電誘導の加工を加へる事によつて、交流を脈流にかへて直接にX線を出すので斯界の革命的發見であるが、全くの獨學家であつて、學界の偏見が氏を容れないでゐる。

プロペラによる飛行機の發明は大阪の二宮忠八氏の發明で、世界的先驅であり、先般表章された。氏の發明については、予は六月の『日本及日本人』で、細かに紹介しておいたから改めて書かない。

ピアノは西洋人の發明になる樂器だが、本紙に時々寄稿される、かのカイゼルをして天才と讚美せしめた田中正平博士が、これを改良された事は人の知る所である。

蒸氣汽罐の中で最も能率の高い物は、宮原二郎男の水管式のボイラーであり、

この發明は直にイギリスの採用する處となつた。また歐洲大戰にタンクや巨砲の運轉に用ひたタンクは、高松梅治氏の無限軌道の發明のおかげである。高松氏がこれを發明して陸軍に採用を乞ふや當局は一笑に付したのであつて、二宮忠八氏が飛行機を一笑に付せられたと好一對である。

まだまだ澤山あるがこれ位にして、化學の方面では池田早苗博士のグリタミン酸ナトリウム即ち「味の素」があり、鈴木梅太郎博士のビタミンがあり、人造石油では小林文平博士、池田博士の指導の下に磯部甫と岡澤鶴治三氏の乾燥劑のアドソールがある。またセメント防水劑として矢中龍次郎氏のマノールがある。火薬に下瀬火薬がある。

毒ガスは古代からあり、二千三百年前にスバルタがアデン人を攻めたとき、硫黄を薪にませて投げこみ、敵城を硫黄攻めにしたのが先驅だが、それ以來今日まで無機化合物であるが、有機化合物でやるのは、日本が先驅で、柴眞揚流

の柔術にある、千人捕遠當術がそれであり、漢薬から製するものである。このことについては『日本及日本人』に二宮忠八氏の飛行機の事と共に書いておいた。毒ガスはまた甲賀流の忍術にもある。

煙幕に至つては日本が恐らく世界で先驅であらう。忍術の煙遁の術といふのがそれで、白遁の術と黒遁の術との二つあり、晝のが白遁の術といふ白煙の出るもの、夜は黒遁の術といふ黒煙の出るもので、共に漢薬から製する。術者が口に巻物をくはへてゐるのは、薬液を入れた筒である。この方法は柴眞揚流にもあり、甲賀流の忍術にもある。

曲亭馬琴の子孫たる瀧澤邦行氏は、繪具の製造では世界一で、今まで世界中で発見された標準色が百六十五種あつたのを、更に研究して一萬色を作つた。従來のレコードはイタリア人で三千二百色といふのがあるが、瀧澤氏は一萬色、しかもどれも肉眼で區別の出来る色だといふ。

九、醫學的方面

醫學方面については、實に日本人は天才を輩出せしめてゐる。

先づ第一に江戸の醫者、賀川玄悦氏は婦人科に秀でて、産婆の名手であつたが、彼は目に一丁字がないので、皆川棋園に口述して『産論』を著はした。

これ西暦一七六六年である。この本をシーボルトが讀んで敬服し、これをドイツ語に譯した。これ日本の科學の本がヨーロッパ語に譯されし嚆矢である。この本の翻譯によつて、玄悦が提唱した妊婦の腹部のマッサージ法が世界に廣つたのである。

最近ドイツから注目され出した鍼灸術の如きは、支那や朝鮮から傳へたといふが、それは却つて日本で發達して逆にそれ等の國へ輸出した旨が歴史に見えてゐる。しかしてこの鍼術は元祿三年に來たドイツのケンフェルによつてヨーロッパへ紹介され、灸はモクサを使ふところからモクセン・テラビの一科を

彼國に設けさせた。

外科手術の世界的名手たりし華岡青州は、大手術に用ふる麻酔薬を發明し、乳癌の手術には各國未曾有の新法を發明してゐる。鼻タケの最初の手術は一八〇五年にロバートソンが試みたのが初めてだが、それより十二年遅れて片倉鶴陵がやつてゐる。

明治に入つては稲田竜吉博士のウイルス病發見、二木謙三博士と石原喜太郎博士の協同で鼠咬病の病原體、宮島幹之助博士のツツガ蟲の病原體、志賀博士の赤痢菌の發見がある。

エジプトのナイル河畔の流域には原因不明の疾病があり、イギリスが之を領するや同國の大家を派して研究するが不明であつた處、わが桂田、藤浪の兩博士によつて明治三十七年に寄生蟲による事が發見され、英人のレーバーは、その研究を見に日本までやつて來たのである。

肝臓ヂストマの中間宿主は小林博士により、肺臓ヂストマ及び肥大吸蟲中間宿主の發見は中川博士により達せられた。最近加藤元一博士は不滅衰傳導學說によつて、フェルボンの學說を根本的に破壊した。

アメリカにおいて野口英世博士は黃熱病の病原體を發見し、その他に數へきれぬ發見をし、目下ロックフェラー研究所の細菌學の部長として邦人のために氣を吐いて居られる。

山極勝三郎博士の癌の研究は世界の權威で、西洋人の研究方法も山極博士の方法を踏習してゐる有様である。

下谷の黒門町にゐる高橋研三氏は、鼻腔内における呼吸道の通路についてバウルゼンの說を破壊して、呼氣の下鼻道を通するを明にし、更に鼻孔内の諸器官を生理的正形に整形手術をなし、蓄膿症を根治する事に始めて成功した。先づ蓄膿の手術で世界一であらう。

予の老友、岸本雄二氏は獸醫の出身でありながら、從來病理學上から粘液質腺病質、惡液質等の不可解の名の下に通稱し來れる、一種半病的の體質を胃腸の自家中毒なることを發見し、心臟肥大、せん息、脚氣、體質病、黃疸、多くの皮膚等、腎臓、糖尿等の病理學說を根本から破壊して一新說を樹て、これが治療法を發見し、世界が不可能としてゐた心臟退縮藥を發明した。氏は獸醫の故を以て學界から容れられなかつたが、予はそのノーベル賞的大發見なるを認め、その學說を専門雜誌がのせないで、『日本及日本人』に推薦し、この五月より向ふ一年にわたつて連載中である。

北里博士はデフテリアの血精を發見し、なほその研究所は世界有數と聞いてゐる。秦博士はサルバルサンを發見した。更に高峰讓吉博士は止血劑として有名なるアドレナリンを發見し、また消化劑としてはタカジアスターゼを創めた。材料はまだ澤山あり、微に入り細に涉らば、たちまち大著をなすのであ

つて、かかる新聞の記事では先づこの位にして切りあげる。

一〇、結 論

以上において予は、まことに大ざつばではあるが、日本人が如何に人種的に優越な民族であるかといふ事を輪廓的に説明した。

右の證明の手段や材料は、予の知れる事の、ほんの一端を一寸ばかり御覽に入れたに過ぎないので、日本人の優越を證據立てる材料は、十分に一冊の著をなすほどに予の手許に集めてある。

上述の證明の手段や材料のみでも、予が何等根據のない、空元氣的な日本主義者でないといふことが、十分に御納得できたであらうと思ふ。——もしこれ等の證明を以てして、なほ予を目して國粹論者といはるる人があらば、予はその人の理性を疑ひ、その人を西洋崇拜狂とでも申し上げるの外はない。

ハンチントンの『人種の性格』 Character of Races なる著書にあげてある、前述のアメリカの科學界に貢献した外國人の統計や、また、スタンフォード大學でなされた、各人種のメンタルテストの結果は、餘りに明かに日本人の才能の如何に優越である事をば證明し過ぎてゐる。——しかもこれ等の證明が、日本人の手によつてなされたのなら、西洋崇拜の諸君も、何とか文句のつけ方もあらうが、西洋人によつてなされたのである以上、如何にしようもあるまい。それで予は、まだまだ西洋崇拜思想にとらはれてゐる人達に向つて、いやしくも本論を読んだからには、西洋崇拜などを、綺麗に川に流して戴きたいと願ふものである。

日本人はエライのだと、誇大妄想になつてうぬぼれるのは良くないが、彼も人なり我も人なり、彼等に負るものかといふ自覺と自尊がほしいのである。

西洋をエライと思ひ込んでゐると、クダラヌ事も良く見えるし、日本人を自

ら輕蔑してゐると、日本人がなしたエライ發明や發見が分らず、あたたら天才をも虐待しくて、世から追ひ出してしまふ事になる。

日本人も追々と自覺して來るには相違ないが、その自覺は早いほど良く、またそれを早く來らせるがために、予等は戰ふてゐるに外ならぬ。

日本人をエライと思ひ過ぎる事の害は、日本人がエラくないと思ひ過ぎる事と等しき害があり、むしろ後者の方の害は多くありはすまいか。

ハンチントン氏は『文明と氣候』といふ本の中で、おぼろげながら「日本人はユチートン人と同様にその人種的優越を主張するのが正當であるかも知れぬ」といつてゐるが、予はまさに明確に日本人がチユートン人と同等の能力がありララン系白人よりも、はるかに優等なりと信じて居り、それを實證する材料も澤山に持つてゐる。

日本人の科學上の才能は、誠に世界の謎である。しかしてこの謎は日本の學

術史を知らぬ西洋人にも解けなければ、日本の研究を怠つて西洋の本のみを讀んでゐる人種にも解けないのである。

過去十數年の予の努力は、主として日本人と西洋人の能力の比較研究に集中されたが、今や漸くその結果をひきつさげて、世界に問ひ得るだけの準備が出來た。

予は日本人の人種的優越を、單に日本人に説くのみが目的でなく、むしろ西洋人に説くのが目的である。

日本人に對する白人の優越感を思想的に除去するための、無形の戰場に予は馬を進めんとするもの、大いなる責任が、予の微弱な双肩にかかつてゐるのを感じぬわけにはゆかぬ。

この目的のために予は『日本人の科學的才能』なる書を草しつつり、英譯して世界に問ふ心算であるが、讀者諸君の中において、予の著述の材料となるが

如き事をお知りの方は、何とぞ無形の國際戰に對する軍資を寄付するおつもりで、材料のお教へが願ひたい。足らぬ事はあつても多過ぎる事はない。さすれば著述の中に御芳名を記して、永代の感謝に代へる。しかしてこの事は特に筆無精な老人方にお願ひをしておきたい。(完)

× × × × × × × ×

以上は報知新聞紙上で發表した全文であるが、同論の反響の至大なりしことは、筆者として未曾有の經驗たりしと共に、同新聞としても殆んど従前比類なき反響であつたと云ふ。——思ふにこれ予が同胞の漠然と感得し、云はんとし未だ云はざりし點を突き、同胞の自覺をば、確なる基礎に立たしめたに由るであらう。本論は分量的には極く小さなものであるが、日本人の才能を世界一と大膽に斷せる點に於て、日本覺醒史上の最初の論文たる事を聊か誇りとするものである。

而して本論を草して三ヶ月後に東京に於て開催された太平洋學術會議は、果然予の論斷豫言を生ける事實によつて證明した。即ち同會は殆ど日本側の一人舞臺となり、日本の學術の光彩を世界に放つ事となつた。この事に關し同會委員、工學博士斯波忠三郎男は次の如く語つてゐる。曰く——『汎太平洋學術會議に於て提出された學術論文は全部で四百を越え、一々短い時間で討議する事は極めて困難なため、その中で特に立派な論文を選択して會議で讀み上げ、それによつて研究するのと、今一つは會議で讀まないが、調査した事を發表するとの二つに分けた。主催が日本の學界であるので、お客様格の外國の學者の論文になるべく多くの花をもたせる爲に、多く外人の物を會場で議論して貰ふ豫定であつた。ところが實質上から調べてみると、日本の學者の論文が非常に秀でてゐて、外國の學者の物は一段と劣つてゐる事を發見して、今更ながら誇りを感じると共に、自然この豫定を變更しなければならぬ状態に立ち至つた。いよいよ

よ會議が開かれて見ると、日本の學者の研究が特に飛び切つて優れて居り、問題となり、外國人の研究の花を持たせる事などの計畫は到底不可能であつた。従つて日本の學界がすべてゼリードしなければならなかつた。これ我學界の甚だ喜びとする處でもあり、自信を深める事でもあり、また將來の暗示ともなつた。外國の學者達は會議の餘暇を以て、我大學や研究所で參觀して歩いたが、その發達した點と、教授及び學者の學究的態度と學究的熱心さに、多大の感動を與へた。この一事は彼等外國人に強い刺戟を與へた。彼等は今更ながらその隆盛なのに驚嘆した。ある米國の學者の如きは、どこか適當な日本の研究所に入つて數年間日本の學術を學びたいから、是非その世話をして貰ひたいと私に依頼した』と。

附録論文(2)

日本の將來は上り坂か下り坂か

一、百中の九十九人は

日本の將來はどうか、日本はいま上り坂か、下り坂かといふ事を聞いたならば、恐らく百中の九十九人までは、日本の上り坂は明治の終りと共に終りをつげた、大正は下り坂である、日本は明治の武功を最後の光として、ずつと下り坂になつて行く、そして日本の將來は第三等國のやうになるのではないかと、憂ひ顔に答へるのが普通である。

まことに日本の現在の有様を見ると、そのやうに思はれるのは、實に無理もない次第である。——松島遊廓事件、復興局の腐敗、三百萬圓問題、北海道御料地拂下事件、十五銀行の内幕から、共産黨事件、難波や朴烈の大逆行爲、怪文書、怪寫眞、監獄の腐敗など、一々數へたならば日本の國家社會はウジのわいてゐる糞桶のやうで、末世だとか澆季だといふ比喻すら當らぬほどの腐敗ぶりである。

日本の將來は上り坂か下り坂か

日本は今まさに二個の無政府主義に禍されてゐる。——一は政權をにぎつて政治の本道を行はずして、私利私慾の外、國家社會の秩序や幸福を眼中におかぬ政黨で、自ら政治の本務を否定せるもので、その行ふところは實は無政府主義の實行そのものである。これに對して他の無政府黨は、日本の歴史や傳統を無視して、萬邦無比の國體を破壊せんとする、いわゆる無政府思想である。

無政府主義を行はんとする暴力黨のいくむべきならば、權力の名において無政府的行爲を實行せる政黨もいくむべきである。この二つは國家の健全分子の奮起によつて、二つながらに亡ぼし、以て健全なる政府を作り、國家と皇室を泰山の安きに置かねばならぬ。

さりながら第二維新の實現は近き將來とし、現状を見るものは、等しく日本が下り坂であるのを否定せぬであらう。恐らくこれは百中の九十九人の見るところであらう。

しかし予はこの國家社會の渾沌たる有様をながめつつ、なほ日本のために悲觀せず、あへて日本は上り坂にあるといふを辭せない。

なるほど目下のアダ波の立ち騒ぐ世相を見ては、末世であり澆季であると思はれるが、更にその一つ底を見ると、日本はまだまだ安心してよい、樂觀してよい。——否むしろ日本が實に頼もしい國であることがわかる。

日本の未來を樂觀すべきだとか、頼もしいとかいふと、とかく例の舊思想と笑はれ勝ちであるが、それは世界の事情を知らぬ人達のいふべき事で、眞に日本を知り、これと外國の事情とを比較し、世界の大勢を達觀し得る人は、予の言葉の眞理なるを感ずるであらう。

日本の目下の事情は悲しむべきであり、これのみを見れば誠に日本が下り坂と思はれるが、悲しき半面に喜ばしき半面がある。

日本は明治維新とともに、目新らしい西洋の文明を鵜のみに輸入した。——

日本の將來は上り坂か下り坂か

而してその輸入はよい事柄もあつた代りに、すい分と悦ばしからぬものもあつた。つまり國情に適したものと適せぬものがあつた。

而してよい物は日本を進歩させてくれたが、悪い物は日本に禍ひとなつた。よい進歩は目につかず、悪い方面のみが目につき、いよいよその悪い要素の主義や制度が、そのまま日本に残つてゐることが出来なくなり、その死ぬる斷末魔に、ごうかして残らうともがき、而して反対力はこれを早く滅ぼしてしまはうと勉める。

この二つの鬭争が目下の混亂の真相であつて、つまり西洋的な考方や、西洋式な政治の悪い方面の總決算期になつたのである。

予は盲目的に日本を愛して日本の將來を賛美するのではなく、自然科学研究の立場から、日本の社會の情況、その方向、我國と國際關係の有様などをいろいろと考へて見て、これなら日本は安心して良いといふことを、科學的に歸納し

て安心してゐる。

日本は決して悲觀するに及ばず、大に樂觀してよろしい。日本は下り坂ではなく、上り坂にある。——大正は日本が外面的に發展せず、却つて内面に發展しつつある時で、日本その物の内容が一段と深まりつつある時である。——その理由はこれから順々に述べるであらう。

二、豫言は當るか當らぬか

「來年のことをいへば鬼が笑ふ」とか「一寸先きは暗だ」とかいふコトワザがある。未來は豫想すべからずと定つてゐるが、果して人生は豫想が全くつかぬものか。未來は豫想がつかぬのならば、日本の將來が上り坂か下り坂かを論じやうとするのは、全くムダなこと以外ならぬ。しかし幾らかでも豫想がつかないならば、豫測をして見るのは興味のあることである。

およそ人間を、その個人個人の未來から見ると、全く一寸先きは暗であり、

日本の將來は上り坂か下り坂か

楽しい新婚旅行の味ひにひたつてゐる五分間後には、汽車が衝突して死なぬものでもない。全く豫測の限りではない。

しかし人生をば全體として觀察するならば、觀察力の如何によつては、すい分とある程度までの豫測がつくものである。それは社會や民族は一の群體であつて、質量が大で行動に方向と情力があるから、結果の現れが遅いが、結果は豫想し得らるのである。

國家社會の興亡盛衰といふものは、デタラメに起る現象でなしに、或一定の約束のもとに、法則的に行はれるものである。

統計學の教ゆる處によれば、毎年の國家の出産數や死亡數はたいてい一定して居り、その定つた割合が將來もほぼ持續して行く。それで過去の人口の動態統計から見て、未來を押しして見る時は、精確な數字の末々までは的中せぬが、當らずと云へども遠からずといふ程度に豫測ができる。

國家社會の興亡盛衰も然りで、それは將來の出産や死亡を豫測する程の正確さをもつて論ずることが出來ぬが、先づざつと豫想がつく。しかしてその國家社會の興亡盛衰の理を推斷するにはおよそ二つの學問によらねばならぬ。

思ふに國と國との生存競争において、興亡盛衰を支配する原因に二つの要素がある。その一つは生物學的原因とでもいふべき内的素因であり、他は國家の地理的條件の損得から來る外的原因である。

國民の素質が劣等であるならば國と國との生存競争にたへられず、亡國せねばならぬのは言をまたずして明かな事であるが、この方面に付て心配をする必要のない事は、予がこの七月に本紙上で『科學上の才能は日本人が世界一』として述べておいた通りである。——同論中では予はスタンフォード大學でなされた、アメリカ全住の各人種のメンタルテストの結果や、ハンチントン博士が『アメリカ科學者名簿』中から、アメリカの科學界に貢獻してゐる科學者の國柄

をしらべ、その數とその國在住の同人種の割合とを比較して見て、日本人が一番エライといふ結論になつた事を述べ、また學界の全般にわたつて述べておいた通りである。

それでこの方面の事については心配がイラヌが、次に地理的な原因から見たならば如何かといふと、これまたスコブル安心であつて、世界の事情は地理的に見て、日本を亡ぼす様には働かず、かへつて日本をして益々、いや榮えに榮えしめる様に働きつつあることである。

予はこれ等の内的原因と外的原因を綜合して、日本は下り坂でなく、のぼり坂であるといふ斷定を下さんとするのであるが、内的原因たる日本人の優秀なこと、従つて日本は外國人との生存競争に敗れる心配のない事の説明は、先づ七月の拙稿で概略の説明がすんでゐるから、本稿において主として日本の勢力を支配する、外的原因について説明をしやうと思ふものである。

三、スベンサーの忠告

日本を外的原因から見ても、上り坂にあるといふ事を證する前に予は日本人の外交能力の非常に優秀な事について述べねばならぬ。

世人はややもすると、日本人の外交能力をば、白色人種にくらべると非常に劣つたものだと思つてゐるが、なかなかドウして日本人は先天的な外交的民族である。——それは事實が證明してある。

凡そ有色人種の國の中で、白色人種のために侵略されぬ國が一つでもあるか實に日本だけではないか。この外に支那があるが、あれは日本が救ふてやつたおかげで決して實力の獨立ではない。——即ち實力で獨立を維持して居る國は日本だけである。

日本がなせ白色人種に侵略されなかつたかといふと、彼等に乗する機會を與へないほど、日本が利巧に立ちまはつたからで、維新の人物の外交能力に歸せ

日本の將來は上り坂か下り坂か

ねばならぬ。

然らばその外交的手腕の偉大な證據を見せよといふ人があるであらうが、これについては予が答へるよりも、もつと面白いものを御目にかけての方が便利である。——それはイギリスの有名な社會學者のハバート・スペンサーから金子堅太郎子爵(當時男爵)に送つた手紙である。

この手紙を見ると、なるほどこれなるかな日本が外國の侵略を蒙らなかつたのはと、ひざを叩き得るのである。

その手紙は明治二十四年、即ち一八九二年八月二十六日付で、時の首相たりし伊藤博文伯が金子堅太郎男を通じて、スペンサーに對して、日本が獨立を維持するには、どのやうにする事が必要であるかを尋ねた事に對する回答文なのである。

この手紙は日本に對する親切な忠告文であるが、スペンサーは英國人の激怒

を買ふのを恐れて、死後でなければ公表してくれろなどと金子男に頼みしものである。——而してこの手紙は一九〇三年十二月八日にスペンサーが死んでから間もなく、翌年の一月十八日のロンドン・タイムス紙上で公にせられた。——タイムスがこの手紙をどうして手に入れたか、すこぶる不思議である。

予はこの手紙をば、ラフカディオ・ハーンの「神國」Japan an interpretation

といふ本の附録において發見した。——いづれこれは近刊される小泉八雲全集にも譯出される事であらうが、この有名な手紙はまだ邦譯されたのを聞かぬから、貧しい語學力をいささか恥ぢらひながら、以下譯出することにする。

この手紙を讀んで思ふことは、日本が獨立を維持し得た理由は、全く日本がスペンサーの忠告を受ける前から、スペンサーによつて警戒された事をば、すでに自ら行つてゐた一事にあるといふ事である。日本は如何に直覺的に偉大な國民——白人の心の底を見ぬき得る偉大な國民かといふ事がわかる。洞察力の

日本の將來は上り坂か下り坂か

偉大はやがて外交的優秀といふ事である。日本が一六四二年にキリスト教を禁止したのは、日本外交史上において、その獨立の上に世界に誇るべき賢明さを示したものであつた。

日本はスペインの教を奉ずるまでもなく、スペインに教へらるる前に、スペインの教へんとする事をすでに知つたといふ事、それは實に人種能力の中の驚くべき奇蹟である。

拜啓 新に首相になられた伊藤伯爵にあてた小生の二通の書面をば、もつと具體的に書いてくれとの御申越しは、悦んで承知いたしました。

さて貴下の御尋ねに對して、何はさておき先づ第一に概括的に申し上げねばならぬ事は、日本の國策としてはアメリカ人やヨーロッパ人をば、出来るだけ敬遠して行けといふことであります。より強力な諸人種の渡來に對して、貴國

は一種持續的な危險に脅かされて居ります。——それで貴國はあらゆる豫防策を講じて、外國人には如何なる足掛りをも與へてはなりません。

小生の見るところによれば、貴國が許してもつて利益となる交際の唯一の形式は、商品の交換——物的ならびに心的生産物の輸出入のみです。他の人種、特により強力なる人種に對しては、これ等の貿易のために絶対に必要な事項を除き、如何なる特權といへども與へてはなりません。今や將に貴國は歐米列強との條約修正により「帝國の全土を外國人並に外國資本に對して開放せん」と提議せられつつあるを見て、小生はそれを由々しき政策として遺憾にたへませぬ。もしその様な事をすれば、どんな結果が生ずるかを見なければ、よろしくインドの歴史をお研究になられたい。

若し一度ヨリ強力なる人種の或者をして、一點の據り所をだに得せしめたならば、必ずや時ならずして、日本人との衝突を招來すべき侵略的政策が頭をも

日本の將來は上り坂か下り坂か

たげませう。而してこうした衝突が若し到來する時があつたとしたならば、その時こそコレは日本人の不法なる襲撃であるから、よろしく復讐すべきであるといひ立てられるのである。貴國の領土の一部が占領され、次いで外國植民地として讓渡を要求せらるるに至りませう。かくて遂に日本帝國全土の征服が生じてまゐります。小生は貴國が常にこの宿命を脱すべく、すこぶる困難な立場にあると思ひます。とはいふものの、貴國がもし外國人に付與する權利を、小生が前に述べた範圍内に止めらるるならば、この成り行きから脱し得らるるでせう。

これ貴下の第一問に對する小生の忠告の要領ですが、外國人に對しては土地の所有を禁止するのみならず、また彼等に對する借地權をも拒否し、單に年ぎめの土地賃借人としてのみ、居住することを許すに止められよと申し上げたいのです。

第二問に對して小生は、斷乎として政府が所有したり、經營したりしてゐる鑛山に、外國人が従事することを禁止せよと答へます。それはそこでは疑ひもなく、政府とそれ等の鑛山業に従事するヨーロッパ人やアメリカ人との間に紛争の動機をかもし易く、かくて引き起された紛争の結果は、イギリス、アメリカ、あるいはその他の強國政府の出兵となり、以てヨーロッパ人の主張の如何を問はず、これを遂行せんとするに至るのである。これけだし彼等文明人の間においては、海外の代表者や商人は、國家を代表するものなりといふ信考が、ドコにおいても持たれてゐるからであります。

第三に小生が前に述べた處の政策に従つて、貴國はまさにその沿岸貿易を自己の手中に掌握して、外國人がこれに従事することを禁止すべきである。かつまた輸入貨物の分配は、當然に日本人自身の手で收めておき、西洋人の手に委ねてはならぬ。何となればこの様な種々の運送事業は、引いては再び諸種の紛

争の種となり、侵略を招致すべき原因となるからであります。

なほこの外に、外國人と日本人との雜婚に關する御質問が残つてをりますがこれに對して貴下は「この事が目下我國の學者や政治家の間にやかましく論議されて居り、かつ最も困難な問題の一なり」と仰せられますが、合理的に御答へするならば、何も別にむづかしい事でもありません。即ち斷乎として禁止するの一法あるのみです。

この事はいささかも社會哲學に由來する問題ではなくて、むしろ生物學上の問題であります。即ち人類の雜婚や動物の雜婚については澤山の實例があるのであつて、それによれば種の混合は一定の輕き度合を越す時は、結局において惡結果をもたらすといふ事であります。——小生はこの問題に關し數年來その研究を怠らぬもので、小生の確信は諸種の方面から集めた、幾多の事實に基礎を置くものであります。

小生はいま家畜の雜種を作ることについて有名にして、かつ幾多の經驗を有する一紳士と、田舎に行くことになつてゐるので、その出發前の三十分を利用してこの返答を書きつつあるのですが、なほかつ雜婚の非を決定的に申し上げるに躊躇しませぬ。同紳士はたまたま小生の質問に對し、小生の所信を完全に確證するやうな事をいつてくれました。即ち羊の例をあげるならば、非常に種類の異つた羊の雜種はすこぶる好ましからざるもので、二次の代では特に不良である。而してその特性の混合は計り知れざるもので、一種エタイの知れぬ變なものが出來るとの事である。

これと同じことは人類の間にも生ずるのであつて、インドにおけるヨーロッパとアジアの混血兒や、アメリカにおける雜種兒がこの結果を示しております。この實例の生理學上の根據は、思ふに次の如き事情によるものではないかと思はれます。即ちある特定の動物はけれども、幾年代かを經過する中には、その

日本の將來は上り坂か下り坂か

特殊な生活様式に従つて、それぞれの體制を順應させるのであります。これと同じやうに、他の總ての種族はそれぞれ特殊の順應を獲得するのです。

以上の様な理由あるにより、もし貴國が各自に甚だしく相異せる生活様式に順應して來た、二個の甚だしく異なる種族を混合せしめたなら、歸するところ貴國は、いづれの生活様式にも適合せぬ不完全な人間を得ることになります。かかるが故に、是非とも日本人と外國人との結婚は禁止すべきであります。

小生は同じ理由により、アメリカにおいて支那の移民を禁止せんとして制定されてゐる取締規則に、全然賛意を表して居るものです。否むしろ小生にしてその権限を有するならば、必ずや支那人の入國をば、できるだけ最小極限に禁止したてであります。小生がかく斷定するに至つた理由は、下に述べる二つの事の中の一が、必然に發生するに相違ないからであります。即ち支那人が廣くアメリカ國內に植民をすることが許可されたなら、彼等は雜婚せざる限りは

奴隸の境遇とはいひがたくとも、少くとも奴隸の境遇に近き階級状態に沈淪して、一個從屬的な種族を形成するか、さもなくして混血を敢てしたならば、彼等は一箇の不良混血兒を形成することが必然である。

このいづれの場合にも、移民が擴張せらるるとすれば、そこに幾多の社會的不安が生じ、ひいては社會の瓦解を來すであります。ヨーロッパあるひはアメリカ人種と、日本人種とを如何に混血して見たところが、結局は前記同様の結果を見るに過ぎますまい。かくの如く貴下は小生の意見がすべての方面において甚だしく保守的なことを御諒解になつたで有りませう。小生は今擱筆するに當つて、再び他の人種は出來るだけ近づけるなど申しあげます。

小生はこの忠告をば、極く秘密に申し上げるのですから、どうか小生の存命中は、この書が公にもれぬ様に願ひます。それは小生が敢て、小生の同胞國民の憤激を惹起させたくないからであります。敬具

追伸——もちろん小生がこの手紙を秘密に願へばとて、これを伊藤伯に傳達せらるるのを拒むものではなく、むしろ伯がこれをその經世の一端として考慮せらるべき時あらんことを希望してやまぬ次第であります。

以上はハーバート・スペンサーが日本に與へてくれた忠告書の全部であるが、イギリス人でありながら、いはゆるイギリスへの忠誠に反して、弱小なりし日本のためにこれだけの親切な注意を與へてくれたことは、實に學者として人道の戰士として、あつばれな見あげた精神である。予はこの手紙を讀んだ時、イギリスにもなほかくの如き人があるかと、感謝にたへぬものがあつた。

當時はいはゆる伊藤が鹿鳴館によつて、變な假裝夜會を毎日やり、謹嚴らしい顔の山縣有朋將軍すら、緋緘のよろひに大身の槍を横へて、天晴な武者振りを示し、重厚沈着な大山元帥ですらチョンマゲのかつらにカミシモをつけて踊

り出す始末であつた。

當時のハイカラの森有禮君は日本語廢止論をやり出すし、井上馨先生は有名な人種改良論を出して、日本人をえらくするには、西洋人との雜婚をやらねばならぬといふ事をすらいひ出したのである。

この條約改正前の歐化時代に崇拜の本来本元のイギリスの哲學者のスペンサーに、日本の國策を尋ねたところが、案に相違した上記の如き答へであつた。——この時分は歐化思想に怒つて、勝海舟翁が維新後の二十年間の沈黙を破つて恭謹なる候文體の意見書を提出した時で、なかなか國內の識者の言に耳を傾ける者がなかつた。

ところが計らずもスペンサーが勝海州あたりの説と同じ「舊思想」的な考を以て忠告してくれたので、大變によいお灸になつたに相違ないのである。——彼等にとつては日本人の口から出るものは保守思想で、西洋人の口から出るも

日本の將來は上り坂か下り坂か

のは偉大！なる達見であつたのであるから。——それで予は當時かかる注意をしてくれたスペンサーに對して、心から御禮を申しておきたいのである。

とはいへ日本を救つてくれたのがスペンサーなどであると思つたら、飛んでもない間違ひであつて、日本を救つたのは多くの日本人の心の底に流れてゐる神國的な保守の精神に外ならぬのである。

日本は海外の長をとり入れる事に速かであるが、概していふなば自分を忘れる事のない、案外に着實な民族である。彼の長を見ることも速かな代りに、彼の短を見るにも鋭敏である。家康がキリスト教を禁止するまでには、七年間もキリスト教の内幕をしらべ、佐渡金山占領の隠謀をかぎつけ、宗教の假面をかぶれる侵略であるといふ事を見ぬいた結果であつて、この家康の洞察的眼光は日本を除く他の有色人種のドレかが持ち合せてゐた特色であるか。

家康の行つたところは、まさにスペンサーが後日になつて教へたところその

ままである。予はスペンサーの言と家康の實行とを見て、今更に日本民族が外交的に偉大なる能力ある民族たるを知るのである。

目下の外務省の役人どもは、どれもこれも外交の何物たるかを知らぬ子供であつて、その外交の拙劣なものにはあきれる外はないが、彼等の腕前や頭をもつて日本人の外交能力を計り知らうとならば、飛んでもない間違ひである。

今の外交官は多くは華族の子弟が多く、門閥と背景によつて華かなダンスにあこがれて、その役についてゐる者が多いので、お坊ちゃんに育つて來た者、國際間の細かなカラクリが分るはずがなく、あんな連中でどうにかこうにかやつて行ける中は、あんな連中も威張つてゐるが、いよいよ國難となれば民間から外交の天才が出て、國交に當つてくれる。その點は幕末に海舟を小者から擡したと同じ事で、大に安心して居てよい。

今日の外交官のなかで、先づ優秀なのは本多熊太郎氏のみであり、彼ならば

日本の將來は上り坂か下り坂か

腕前において、その洞察力において押しも押されぬ世界的手腕家であらう。現にオーストリアの大使をしてゐた時、オーストリア政府の外交のかけ引きは、全く氏を智恵ぶくろとして行はれたではないか。

日露戦争の時に明石將軍があつてガボン僧正をして革命を起さした手際は、何人も知つてゐるところ、目下の外務省には人材がゐないが、イザとなれば民間にいくらでも人物が居り、陸海軍の方面の人物のみでも優に外務省の無能者に代ることが出来る。日本は斷じてユダヤ人の如きに、してやられる心配はなく、なかなか外交のかけ引きには、ひけを取る心配がない。

予の知る限りでは、西洋が没落する運命にあることを、世界で一番早く、科學的に豫言した人は、西洋人でなく日本人である。先年なくなつた遠藤吉三郎といふ理學博士が、その豫言の世界的先驅者である。博士は海洋植物、とくにプランクトンの研究家として世界的に有名な人で、『西洋中毒』だとか『嗚呼西

洋』だとか『日本民族のため』になどいふ、驚くべき先覺的な文明批評を残された人であるが、その方が大正三年に世界大戦が起ると共に、スペインギユラーの本と同じ名前の『西洋の没落』といふ本を書き、同戦争はヨーロッパの衰退の原因となり、同時にアジアの勃興となるといふ事を、實に明快に豫言してゐる。その當時の名實ともに世界的先驅なる名著は日本にかへり見られず、今になつて遅れ走せにスペインギユラーなどが引合に出されるのは困つた事である。

遠藤博士の次に同様の問題を豫言したのが若宮卯之助氏で、氏は大正四年に長篇な論文によつてこの事を豫言してゐる。——何もわざわざ西洋人から教へられる必要がない。若い人達はツケ焼刃の日本主義にならず、本當に心の底から日本的に覺醒し、日本の賢者達のいふ事が耳に入るやうにせねばいかぬ。——心の底にまだこびりつき、半ば無意識的に残つてゐる西洋崇拜の思想などを早く洗ひ落してくれなければ困る。まだまだ諸君等の覺せいには、怪しいもので

日本の將來は上り坂か下り坂か

ある。

四、アジアの復活と日本

話がだいぶ餘談になつたが、さてなせ西洋は没落の運命にあり、アジアは勃興の氣運にあるか。

いつたい文明といふものは、人類生活の花であるから、物資が豊富で、人間が澤山に集團生活を営み得るところでなければ發達せぬものである。ところでこの條件を具へてゐるのはドコかといへば、地球の上ではアジアとアメリカである。

ヨーロッパは土地が貧しく、天産に乏しいので、文明を發達させる條件に適してゐないのである。ここに急に文明が發達したのには原因がある。それはこの地の人間は地理的原因から冒險性に富んでゐて、従つて早くも世界を征服して、それを植民としてその物資を略奪することになつた。

そしてその略奪の上に築いたのがすなはち、今日のヨーロッパ文明といふもので、一種の寄生文明なのである。しかしてこの寄生文明なるものは、植民地にもはや寄生が出来なくなるやイナや、直ぐに亡ぶべき運命にあるものなのである。

ところがヨーロッパの寄生文明、略奪文明には三つの弱點があつた。しかししてこの三つの原因のために、その文明は自ら瓦解するのやむなきに至つたのである。

三つの原因とは、科學の發達、植民地への出稼ぎの増加、ヨーロッパ諸國の争闘これである。——以下順次にこれを説明しやう。

十八世紀の終りから、ヨーロッパにおいて勢力を節減する機械がごしごし發明されて、いはゆる産業革命なるものが起き、アダム・スミスの『富國論』などが著され、世界全體を分業でやるなどいふ突飛な空想まで出来、植民地は原料

日本の將來は上り坂か下り坂か

を供給するもので、ヨーロッパは加工品を供給するといったが、間もなく機械を植民地に賣り出す様になつてから、植民地はヨーロッパのお得意先きではな
くて、かへつて製造品の競争者とならうとするに至つた。

凡そ資本といふものは國境がないもので、利益の少いところから、何時でも
多いところへ流れ出して、そこに商工業が打ち立てられるのであつて、この資
本の移動性が工業の國際的中央集權を打破して、工業を世界の各地に地方分散
をなさしめたのである。

つまりヨーロッパは資本主義によつて興り、また資本主義によつて自滅すべ
き運命にあつたのである。——資本主義の結果、植民地政策が更にヒドクなり
従前には單に植民地の物資の略奪であつたのが、今前は製品の販路すなはち市
場の確保のための植民政策となつたが、更に資本はそこに工業を植えつけて、
今度は植民地を獨立せしめる運命を併せ持つに至つたのである。

かくて植民地は工業的に自治をなすやうになり、やがて政治的にも獨立の機
運になるが、もはや植民から奪ふことも出來ず、また賣ることも出來ぬヨーロ
ッパは、資本から生ずる利益で、遊んで暮らして行くわけにはゆかなくなる。
——すなはち經濟學上の剩餘價値の收得が少くなり、従つて貧乏になる。貧乏
になれば自ら、文明の程度がさがつて行くといふものである。

かく觀すれば、ヨーロッパの近代文明は根のない浮草のやうな、槿花一朝的
な文明に外ならなかつたのであつて、一種の無理な文明であり、變態的な一時
の現象であつたのである。

これに反しアジアは天産に豊富であり、ヨーロッパから機械文明を輸入して
鬼に金棒といふ風になり、今までの奴隸的な境遇を自から解放せんとするに至
つたのである。

大觀すれば世界の經濟は、工業分散の結果として、一種の自足自給の經濟制

度に、復古せんとする傾向を有するものであるが、かくてヨーロッパが物資の不足な土地で自給自給をやらねばならぬとなりつつある處に、西洋の没落の經濟的原因がある。これに反しアジアは、今まで略奪せられた事から解放せられて、物資の豊かな土地で自給自給をやるのであるから、自ら勃興せぬわけにはゆかぬ。

これをたとへていふなら、アジアの勃興は、今までサナダ蟲に寄生されてゐた者が、蟲下しを飲んで蟲を下し、めきめきと體がふどり出すやうであり、ヨーロッパの没落は蟲下しを飲まれたサナダ蟲がヘコタレ出すやうな有様である。

五、西洋没落の人間的原因

ヨーロッパが没落してゆく經濟學的原因是は、以上に述べたやうであるが、第二の原因は人間的原因で、ヨーロッパから絶えず優秀な人間が出て行つて、層

だけが残るやうになり、従つて文明が低下するのは止むを得ないのである。

なせヨーロッパから優秀な人間が出て行つて、層のみが残るかといふと、ヨーロッパは北方國で且つ雨量少く、天産に乏し、極くつまらぬ處である。それで海外へ出稼ぎに出かけるのであるが、この海外へ出かける分子は、必ずその人種の中で體力、勇氣、智能において優れてゐる分子である。かくて後に残つたのは、層のやうな人間となる。

文明の發達は、自然の條件と同時に人間の素質が重大な役目を占めてゐるから、若し人間の素質が悪くなれば、文明も従つて低下して來なければならぬ。

ヨーロッパから海外へ出て行く人間は、アフリカや南洋に來た者は、その氣候が彼等の肉體に不適當なために、その子孫は早く絶滅してしまふか、あるひは人種的な低下が行はれる。——この例はハバナ群島におけるブーア・ハワイトと呼びなされる低級白人を見ればよい。——この様にして不適當な氣候の處

に來た白人は、たちまち劣等になり、従つて人種的優越と支配權を失ふことになる。

海外へ移住して行く白人の中、北アメリカは、ヨーロッパに近い氣候で、かつ物資も豊富だから、ここへ來た白人は滅亡せず榮える。しかし將來の白人文明の中心は合衆國でなしに、カナダに移るに相違ない。——これはアメリカとカナダの人口の移動の割合が示してゐる。

しかして北アメリカでも大西洋の沿岸が日本に近い氣候であるのに反し、かへつて太平洋の沿岸が遠いヨーロッパに似てゐるのだから、どうしても舊大陸によつて亡び行く文明は、最後にアメリカの東部で適所を求めねばならぬ。——アメリカがアジアの移民をせき止めるのは誠に無理もない次第である。

以上の如き移民による、人間の淘汰作用によつても、ヨーロッパは没落すべき運命を急ぎつつあるものと見てよい。

ヨーロッパ没落の第三の原因は、今度の世界大戰が即ちそれである。そもそもこの大戰は如何にして起つたかといふと、既に諸家によつて説明されてゐるやうに、イギリスとドイツの資本主義の争ひに外ならぬ。

ドイツは四面に敵國を持つてゐる關係上から、早くからオーストリアやフランスと戦争に日も足らず、海外に手を出し得なかつたが、海外に手を出し得るやうな時には、イギリスがよい處を占領してしまつて居り、仲間には入れてくれぬので無理に割り込まうとし、メソポタミヤの油田の争闘が近因となつて、サラボアにおけるピストルの一弾が發火點となつたのである。

しかるに戦争は物資の浪費であつて、今まで工業品の輸出國であつたものが俄に軍需品その他の工業的製作品の輸入國となつた。そこで世界の他の地方の工業を刺激して、その芽のやうな工業を速成的に太らしてしまつた。ブラジルの如き戦前に食物の輸入國であつたのが、戦後には輸出國になつてしまつた。一

日本の將來は上り坂か下り坂か

事が萬事である。

しかしてまた戦争は生物學的に見て、普通の生存戦争とは逆な淘汰の仕方をするもので、生存競争では優れてゐる分子、強い分子が生き残り、劣つた分子が亡びて行くのであるが、戦争ではその反對で、弱い者は戦に出ぬから生き残り、強い者は戦に出て死んだり傷いたり病になつたりする。つまり戦争は悪い分子を残して、よい分子を亡ぼすことになり、人種の品質の價値をヒドく下落せしめるのである。——かくて戦争がすんでからの國際戦争は其國をば弱者となすのである。

以上を大觀すればヨーロッパは資本主義によつて興り、その資本主義の結果お互ひに戦争を起して、後進國の産業を刺激して發達させてやり、自國の人種の素質をば下落せしめるといふ馬鹿な結果を起すのである。

西洋の没落は、全く西洋の自殺に外ならぬので、資本主義のやうな馬鹿な無

用な制度を發達させ、その結果として戦争を起し自ら亡んでゆく。——かれ等がかくの如き愚かな事をなすのは、彼等の精神上に缺陷がある證據で、その缺陷を生ずるに至つた原因の一つは食物の關係から來てゐるといふ奇説を予はもつてゐるが、この興味深い説はここでは述べて居れぬ。——とにかく西洋の没落は西洋的な生活様式に、矛盾があるからに外ならず、當然に没落すべくして彼等は没落して行く。——ヨーロッパは再び復興するであらうと考へる人もあるが、それは歴史を十分に洞察できぬ人で、ヨーロッパはギリシヤ、ローマの繁榮して衰へた状態を、將來において持つに外ならぬのである。

六、日本はかくて勃興する

産業の地方分散的傾向により、ヨーロッパといふ寄生蟲がなくなつたアジアは、當然の結果としてその活力を回復し、更にヨーロッパより教へられた勞力節約機械の助によつて、從來よりも更に高等な文明を築くに至り、アジアの復

日本の將來は上り坂か下り坂か

興は舊觀を脱して、新にヨーロッパに取つて代る文明帯とならんとする。

これと同時に他方においては、ヨーロッパを見棄てた白人文明は再びアメリカの北部によつて舊よりも優れた適所を見出し、そこにまた花の如く開き出さんとする。

かくてアジアとアメリカと相對して、世界の文明の二中心が出来るのである——しかもこのアジア文明の復興の地といひ。アメリカ文明の新創生の地といひ、ともに北半球にある處のものである。

しかしてこの二つの文明地帯の交通の要路にあたつて、我が日本が横つてゐるのである。即ちアジアとアメリカの最短距離の處にあり、兼ねてまたアジア文明の復興すべき東海岸であり、またヨーロッパへの近距離の地である。——實に三つの文明のうづ巻くところに日本がある。

交通の要路、文明帯の中間に日本があり、まさかに日本は世界の中心と申し

てもよい處に位置を占めることになる。——海は變じて桑畑となるといふが、昨日までヨーロッパに遠かつた田舎の日本は、こんどは反對に世界の都會とならんとしてゐる。

これに加へて日本は、精神的活動を刺戟し科學文明を發達させる適度の氣候的條件を具へてゐる。

一切合財が日本文明の發達と刺戟の爲にあるやうなものである。日本に文明が起るなどいつたところで、自然の勢ひとして起らざるを得ないのである。

日本は今後は山上から雪塊をころがすような勢ひで文明が勃興して行く。そして二十歳から三十歳までの讀者が老人になる頃には、日本は世界一の文明國として押しも押されぬ國となつてゐるであらう。

これは予があらゆる方面の傾向なり智識なりを總合して、大局より理詰めに科學的に豫言するのであつて、決して日本をやたらにヒイキ目に見たいがため

日本の將來は上り坂か下り坂か

に、かく論ずるのではない。——科學的推定が當然に導くところの、當然なる結論である。

ラフカヂオ・ハーンは前に紹介したスベンサーの手紙をのせてある後の著書の最後に章の『工業的危険』といふ部門で、日本人がヨーロッパ人と工業的競争が出来るか否かを危み、日本人が商取引に負るかも知れぬといつてゐるが、却つて鈴木商店の如きは今やキューバの砂糖を買占めて、アメリカの砂糖の相場を變動させたり何かする。

商取引でもなかなか日本人はヨーロッパ人にまけぬ。——外交的才能、武力發明能力、商業能力、指導能力——どれ一つとして日本人はヨーロッパ人に劣つて居らぬ。予は日本人の才氣を世界に誇つてよいと思ふ。うぬぼれでなしに日本は選ばれたる民であると思つてゐる。

ヨーロッパは物質萬能の文明であり、從來のアジア文明は精神萬能の文明で

あつた。この二つの文明を綜合して、日本は世界に對して一個の新らしい文明を模範的に創造するのである。——物質に偏した文明は徒らに争鬭の文明であり、心に偏した文明はともすれば生存競争に負けたり、迷信が勝つたりする文明である。——この二文明の長所をとり、短所を棄てて、日本の文明は始めて理想的な文明を作るのである。而してその日は近づきつつあるのである。(完)

昭和二年五月二十日印刷
昭和二年五月廿五日發行

漢方醫學の新研究

定價二圓八十錢

著者 中山 忠 直

發行者 大 葉 久 吉

印刷者 濱 野 英 太 郎

印刷所 東京印刷株式會社麹町出張所



發行所

東京市日本橋區本銀町三丁目
振替口座東京二八〇番 東京實文館

實文館新刊書類

東京日々新聞經濟部編

財界ロマンス

最新刊 定價全二圓五十錢
美裝四六版 送料金十二錢

本書は本年初頭より東京日日新聞に掲載され噴々の好評を博したるものあらゆる財界のロマンスを遠慮なく組上に上し解剖し讀者をして巻をおき能はざらしむ尙裝幀の美しき事類なく新春諸子の書庫を飾るに最も好適なるものである。興味津津たる中に實業界のあらゆる事に通じ興味と實益とを兼ねたる本書の如きものなし。

趣味と實益 農業の副業

笹澤 三善著 **週本** 定價金二圓五十錢
全一冊 送料金十二錢

水産王國

笹澤 三善著 最新刊布裝 定價金二圓二十錢
全一冊 送料金十二錢

ブラジル移民研究

法、農學博士 高岡 熊雄著 全一冊 定價金三圓五十錢
送料金十八錢

實文館新刊書類

矢田 挿雲著 太田 三郎裝禎

太閤記 (第一篇)

美裝 定價金二圓三十錢
四六版 送料金十二錢

本書は目下報知新聞夕刊紙上に連載され噴々の好評を博せる太閤記の初頭を纏めたるものにして太閤の幼時小猿と稱せられたる時より筆を起し進んで信長に仕官する迄英雄兒の波瀾の境遇を血と涙によりて描けるもの其眞價既に定評あり、尙更に太田畫伯の挿繪十數葉は錦上更に華を添えて居る。

男子不要論と性の謎

醫學士 杉浦 清著 全一冊 定價金二圓五十錢
送料金十二錢

日本鮮血の遺書

ヅキリヨン著 全一冊 定價金二圓九十錢
送料金十二錢

アツシツの聖フランシスコの生涯

カスパート著 全一冊 定價金三圓二十錢
深山衛夫譯 送料金十二錢

寶文館新刊書類

愛兒の
ために
歐米を訪ねて

田子一民氏夫人
静江女史著

布一冊裝

定價金一圓五十錢
送料金八錢

趣味の醫學

醫學博士
豐島豐次郎著

布一冊裝

定價金二圓三十錢
送料金十二錢

東西女性發達史

池田林儀著

布一冊裝

定價金二圓九十錢
送料金十二錢

子供の見たる歐羅巴

東京女師附屬
小學生徒
北原俊子著

布一冊裝

定價金一圓八十錢
送料金八錢

西歐名作物語

水田明著
衣川美鈴裝幀

布一冊裝

定價金一圓
送料金四錢

カトリック童話寶玉集

蘆谷蘆村著

布一冊裝

定價金二圓八十錢
送料金十六錢

60
857

終